

社会基盤としてのインターネットアーキテクチャ論文特集の発行にあたって



社会基盤としてのインターネットアーキテクチャ論文特集編集委員会

委員長 吉田 健一

インターネットが生活活動の基盤として機能するようになり、社会のあらゆる分野に大きな影響を及ぼしている。このためテレビ電話やビデオサービスなどを支える新しい技術だけでなく、それらを使ったサービスの検討や、その社会的な影響についても議論が必要になってきている。例えば強力な検索エンジンや巨大なblogサービスは、単純な情報処理技術としてとらえるだけでなく、マーケティングや社会調査を行うための社会基盤としてとらえ、その実現/応用だけでなく、悪用への対策など、様々な観点からの議論が必要になってきている。

このような状況を踏まえ、インターネットアーキテクチャ研究会では、インターネットの基本設計や設計思想につながる基盤技術、運用技術、更には新しい技術の展開に関する論文だけでなく、新しいアプリケーションの提案や、マーケティングや社会調査への応用など、社会基盤としてのインターネットについて研究を奨励すべく、「社会基盤としてのインターネットアーキテクチャ論文特集」を企画した。

企画にあたり、ネットショッピングをはじめとしたインターネット総合サービスを提供している楽天株式会社楽天技術研究所の森正弥氏に、重要と考えているサービス、また、それをサポートするために必要となる技術開発/研究について招待論文を執筆頂き、クライアントの多様化、サーバの大規模化、プラットフォームのエコシステム化について執筆頂いた。

また一般論文として合計18編の論文を投稿頂き、企

画の趣旨と論文の内容を考慮しながら、うち5編を採録させて頂いた。避難所利用者のためのメッセージ通信システムとDNSを使ったコンテンツへの関心度分析、会社内などでの回覧文書への署名方式を検討した3編の論文は社会からの要請をベースに必要な技術の研究された色彩の強い論文が採録できたと考えているし、経路広告エミュレータとIP層拡張に関する2編の論文は、いずれもそれらをささえるインフラ技術の将来を見据えた重要な研究論文と考える。

インターネットが社会基盤として果たすべき役割を考えると、関連する研究は通信ソサイエティにとどまらず、情報・システムソサイエティやヒューマンコミュニケーショングループとも連携を図りながら幅広く研究を進めていく必要があると考える。本特集が関連分野の研究交流に役立ち、研究コミュニティの活性化の一助になれば幸いである。

最後に本特集の発行に際し、最新の研究成果を御投稿頂きました執筆者の皆様、御多忙の中編集に御協力頂きました編集委員及び査読委員の皆様、予定どおりの発行のために目を配って頂いた事務局の皆様へ深く感謝の意を表させて頂く。

よしだ けんいち
吉田 健一（正員） 1980東工大・理・情報科学卒、同年日立製作所入社。1992年9月博士（工学、大阪大学）。2002より筑波大学大学院ビジネス科学研究科教授。インターネット上の各種データを、機械学習の手法を使って解析する研究に従事。情報処理学会、人工知能学会等各会員。

社会基盤としてのインターネットアーキテクチャ論文特集編集委員会

委員長 吉田 健一
幹事 岡部 寿男・柳 生 智彦
委員 新 善文・田上 敦士・塚本 和也・小原 泰弘
梶田 将司・片山 勝・小林 克志・首藤 一幸